

薬学研究科 薬科学専攻

人材育成に関する目的	薬科学専攻は、薬科学とその応用展開の教育・研究を通して、薬に関する総合的情報学(ファーマコインフォマティクス)を「薬科学」の視点から深く理解することにより、幅広い専門的知識と実践能力を身に付け、科学的探究による高度な研究能力を活用し、臨床薬学分野や薬科学関連領域等の諸課題への解決策を提示する能力及びそれらを教育指導できる優れた指導能力を有する人材を育成する。
------------	--

カリキュラム・ポリシー

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、および薬学に関する専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」を通じて、人類の健康と社会福祉に貢献しうる人材を育成するという教育目標を実現するための教育課程を編成する。

(1)「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。

(2)「一般教養科目」では、幅広くかつ深い学識を涵養することを目的とした授業科目として、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を身に付けるための授業科目を配置する。

(3)研究指導の過程では、国内外において実施される学会等での発表、学術論文の発表、外国語文献の調査、指導教員との討論等を行うことを通じて、臨床薬学分野や薬科学関連領域等 に精通した研究者・技術者等となるために必要となる能力や技能を修得させることに加えて、研究の計画段階から双方向性に配慮した指導を実施するとともに、国際的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力にも優れた将来のリーダーを育成するための教育を行う。
2. 博士後期課程においては、修士課程において修得した問題解決能力や指導能力を基礎として、さらに「専門科目」、「一般教養科目」、「研究指導」を通じて、近未来の医療を革新することのできる薬科学関連分野の研究者を養成するための教育課程を編成する。

(1)「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。

(2)「一般教養科目」では、自立した研究者として研究を遂行していくために必要な深い学識と汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。

(3)研究指導の過程では、国内外において実施される学会等での発表、学術論文の発表、外国語文献の調査、指導教員との討論等を行うことを通じて、臨床薬学分野や薬科学関連領域等 に精通した研究者・技術者等となるために必要となる能力や技能を修得させることに加えて、研究の計画段階から双方向性に配慮した指導を実施することを通じて、前向きかつ緻密な思考力を養成するとともに、国際的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力にも優れた将来の研究指導者を育成するための教育を行う。

3. 他研究科・他専攻の授業科目の履修を可能とし、学際的な分野の学習や異分野交流の機会を提供することにより、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

分野	科目区分	科目群で身に付ける能力	修士課程				博士後期課程					
			1年次(前期)	1年次(後期)	2年次(前期)	2年次(後期)	1年次(前期)	1年次(後期)	2年次(前期)	2年次(後期)	3年次(前期)	3年次(後期)
創薬科学 生命薬科学 医薬科学 全分野 共通	特論科目	各専門分野に関する基礎から最新のトピックスに至るまでの知識を修得することを主たる目的とした講義科目であり、学生が各々の志向に応じて研究を遂行するための基礎となる素養を身につける。	基礎有機化学特論M					先端薬科学特論1				
			基礎物理化学特論M						先端薬科学特論2			
			基礎生物化学特論M							先端薬科学特論3		
			基礎薬物治療学特論M									
			基礎病態学特論M									
			基礎衛生薬学特論M						ゲノムインフォマティクス特論			
	一般教養科目	高い倫理性や世界の多様な文化・歴史に対する理解力や、語学力を含めたコミュニケーション能力に加えて、他専攻における最近の研究動向を含めた幅広い教養を身につける。	基礎天然物薬品学特論M					レギュラトリサイエンス特論				
			がん医療特論M					クリニカルリサーチ特論				
			基礎レギュラトリサイエンス特論MA									
			基礎レギュラトリサイエンス特論MB					医療データサイエンス特論				
			核酸創薬化学特論M					リカレント教育特論1				
	一般教養科目	医療倫理						リカレント教育特論2				
		知的財産特論										
		Basic Discussion and Presentation 1										
		現代物理学特論										
		その他の教養(共通)科目										
	一般教養科目	有機化学特論										
		物理化学特論										
		生物化学特論										
		薬物治療学特論										
		衛生薬学特論										
	演習科目	研究内容の発表および討論を通じて、国際的な研究者として活躍するために必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身に付ける。						薬科学研究発表演習1		薬科学研究発表演習2		
		最新の研究例に関する徹底的な調査を行い、最新の研究技法を修得するとともに、広い視野を持った柔軟な発想力を身につける。										
		研究内容を論文の形式で発表するために、論文中で主張すべき内容を適切に選択し、それらを英語で論理的に記述するための能力を身につける。										
	研究科目	研究課題に対して、最新の研究技法を活用してその解決方法を探るとともに、幅広い視野から実践的に問題を解決するための能力を身につける。										
	修了所要単位にきまない科目	今後孤大が見込まれるジョブ型採用を見据え、産業界と大学が連携した大学院教育を行うことで、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を身につける。										
必修科目 選択必修科目 選択科目												

ディプロマ・ポリシー

1. 修士課程においては、薬科学専攻分野における高い専門性と倫理観、国際的視野を持った研究者またはそれに準ずる高度職業人の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士(薬科学)の学位を授与する。

(1)薬科学およびその関連する領域に関する広い視野を形成するための基礎的な知識に加えて、薬科学専攻の専門分野に応じた高度な専門知識。

(2)薬科学専攻の専門分野に応じた研究能力。

(3)薬科学専攻において修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、自ら課題を発見・設定し、解決する能力。

(4)薬科学専攻において修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、国際的な視野を持って活躍できる能力。
2. 博士後期課程においては、創造性豊かな優れた研究能力をもち、あらゆる研究・教育機関の中核を担う研究者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、薬科学専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士(薬科学)の学位を授与する。

(1)薬科学専攻の専門分野に応じた極めて高度な専門知識。

(2)薬科学専攻の専門分野において研究者として自立して研究活動を行う能力。

(3)薬科学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的な発想に基づいてこれを解決する能力。

(4)薬科学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、専門性を要する分野において、国際的な視野をもって活躍できる能力。